



2024年 2月13日

日本鉄道労働組合連合会

J R 西 労 組 「 第 4 2 回 中 央 委 員 会 」 を 開 催 全組合員の総団結で闘い抜く2024春季生活闘争方針を決定

J R 西 労 組 は 2 月 5 日、ホテルマイステイズ新大阪において第42回中央委員会を開催し、2024春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針を満場一致で決定した。J R 連 合 か ら は、住吉一家労働政策局長が参加した。

あいさつに立った上村良成中央執行委員長（J R 連 合 副 会 長）は、「安全確立の取り組み」「2024春季生活闘争」「人財の定着」「持続可能な交通体系の構築」について所信を表明したうえで、建設的かつ将来に繋がる討議・方針補強を要請した。そして、「北陸新幹線の敦賀開業、大阪駅前・広島駅ビル開発、大阪・関西万博などのプロジェクトを組合員の英知を結集して成功させ、コロナ禍からの反転攻勢に繋げよう」と呼びかけた。



上村中央執行委員長

J R 連 合 の 住 吉 労 働 政 策 局 長 は、コロナ禍からの回復基調にある中で、労働力不足が顕著になっていることや、高水準で推移する物価高騰・実質賃金の低下に触れながら、2024春闘はデフレマインドから脱却する議論が必要であり、労使のマインド変革が欠かせない事を説き、賃金も物価も安定的に上昇する経済社会への転換を目指したONE TEAMでの取り組みを要請した。

議事では、執行部から「定期昇給の確保」「ベースアップ10,000円」「年間臨給5.7箇月」などを柱として総合生活改善を目指す2024春季生活闘争方針をはじめ、当面の活動方針（案）が提起された。これに対して、14名の中央委員が発言に立ち、「安全の確立」「2024春季生活闘争」「組織強化・拡大」「要員や会社組織変更などの職場課題」「政策活動の推進」など多岐に渡る意見が示された。その後、執行部からの中間答弁、羽野敦之書記長による総括答弁を経て、全ての議案が満場一致で採択された。



野敦之書記長による総括答弁を経て、全ての議案が満場一致で採択された。

J R 連 合 は、2024春季生活闘争にかかる情報の提供・共有等の側面支援を行いつつ、労使協議では解決が困難な政策課題の解決を目指し、引き続き加盟単組と連携して取り組んでいく。